

平成15(2003)年産水稻の作柄概況 (青森) (8月15日現在)

水稻作柄概況調査(8月15日現在)は、それぞれの生育段階に応じて、穂数、もみ数及び登熟状況のうち計測可能なものを実測し、それ以外の収量構成要素は、過去の調査結果と調査時点までの気象データ等により推定し、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っている。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

図1 地帯別作柄概況 (参考)

【調査結果の概要】

平成15年産水稻の8月15日現在における作柄は、県平均で「著しい不良」と見込まれる。

これは、6月下旬以降、天候が低温・日照不足で経過したため、全もみ数がやや少ないと見込まれることと、登熟の不良が見込まれるためである。



表 水稻の作柄概況 (8月15日現在)

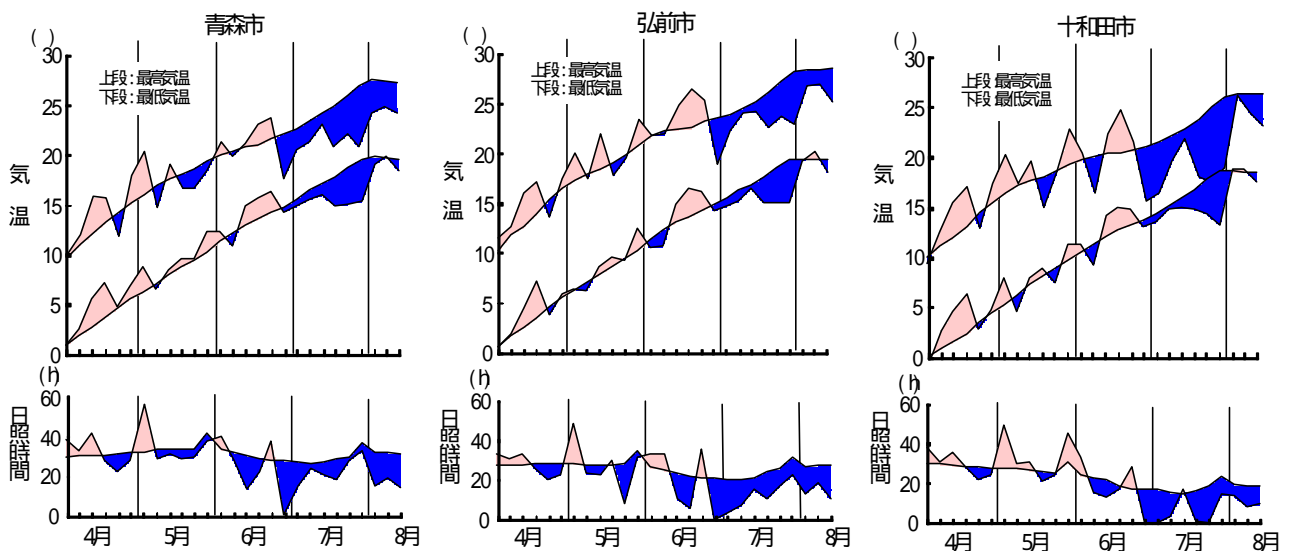
区 分	出 穂 最 盛 期			全もみ数 の 多 少 (穂数の多少 平	1穂当たり もみ数の多少 年 比	登熟の良否 較	作 柄
	本 年	対平年差	対前年差					
県 平 均	月 日	日	日	やや少ない	平年並み	やや少ない	不 良	著しい不良
(参 考)	8. 13	6	5	やや少ない	平年並み	やや少ない	不 良	著しい不良
青 森 地 帯	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや不良	不 良
津 軽 地 帯	8. 11	6	4	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや不良	やや不良
南 部 ・ 下 北 地 帯	やや少ない	平年並み	少 ない	不 良	著しい不良

注：1 出穂最盛期とは、出穂済み面積割合が50%に達した期日をいう。
 2 平年及び前年差の 印は早いを示す。

【解 説】

- 1 田植最盛期は、4月下旬の降雨により耕起作業等の遅れがみられたものの、苗の生育が順調だったことから、県平均で平年に比べて1日早い5月17日となった。
- 2 田植後の生育は、5月下旬から6月中旬までの天候がおおむね平年並みに経過し、初期生育は良好だったものの、6月下旬から低温・日照不足の天候が続き生育は緩慢となり草丈はやや短く、茎数は平年並みとなった。
- 3 出穂最盛期は、6月下旬以降、オホーツク海高気圧の影響により太平洋側を中心に低温注意報が出されるなど低温・日照不足の日が続いたことから、県平均で平年に比べて6日遅い8月13日となった。
- 4 穂数については平年並みが見込まれるものの、1穂あたりもみ数は、粒数決定期の低温により県平均で、やや少ないと見込まれる。このため、全もみ数は平年に比べやや少ないと見込まれる。
- 5 登熟は、不良と見込まれる。これは、減数分裂期・穂ばらみ期及び出穂期前後に太平洋側を中心に気温が低く日照時間も少なく経過したことで、稔実歩合の低下や出穂の遅れによる粒の充実低下が予想されるためである。
- 6 以上のことから8月15日現在における作柄は、全もみ数がやや少ないと見込まれることと、登熟の不良が見込まれることから、県平均で「著しい不良」と見込まれる。

図2 平成15年半旬別気象図



【利用上の注意】

- 1 本統計情報で用いた作柄の表示区分は、次のとおりである。

作 柄	良	やや良	平年並み	やや不良	不良	著しい不良
作況指数	106以上	102～105	99～101	95～98	91～94	90以下

- 2 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり(予想)収量の比率である。
- 3 作柄表示地帯に包括される地域は以下のとおりである。

青森地帯 [青森市、東津軽郡]

津軽地帯 [弘前市、黒石市、五所川原市、西津軽郡、中津軽郡、南津軽郡、北津軽郡]

南部・下北地帯 [八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、上北郡、下北郡、三戸郡]

連絡先 : 東北農政局青森統計・情報センター
 生産流通消費統計課 生産統計第2係
 TEL 017 (734) 5513 内線303
 FAX 017 (775) 7971

この統計情報は青森統計・情報センターホームページ【<http://www.aomori.info.maff.go.jp>】でも御覧いただけます。